

生産性向上支援訓練をご利用いただきました！

株式会社スギヨ さま

- 所在地 : 石川県七尾市
業種 : 食品製造業（主に水産加工食品製造・販売等）
利用コース : DX（デジタルトランスフォーメーション）の推進
製造分野におけるDX推進
※両コースとも本社集合形式と各拠点をつないだオンライン形式を組み合わせ実施
実施時期 : 令和6年10月
利用時間数 : 各コース6時間
実施機関 : 株式会社日本能率協会コンサルティング（野元 伸一郎 先生）



株式会社スギヨ 本社外観



「DX（デジタルトランスフォーメーション）の推進」の訓練風景

<事業主様の声>



管理本部
DX推進部 次長
中村 様

令和3年（2021年）にDX推進部が発足して以降、「DX認定」の取得や社内プロジェクトの立ち上げ、研修の実施等の取組みを進めていましたが、社内では「DX推進はDX推進部の仕事」というイメージが強く、社員が自分事としてDX推進に取り組むには、DXに対する意識が浸透していない状態でした。

令和6年1月に、石川県内のDXに関する講演会に登壇し、自社のDX推進に関する取組みをお話したところ、後日ポリテクセンター石川から生産性向上支援訓練のDX対応コース（※）について、ご案内の連絡をいただきました。

令和6年1月1日の能登半島地震により、本社及び工場が甚大な被害を受けており、一時的にDX推進部の業務も止まっている状況でしたが、今後はこれまで以上にDXを推進していく必要性を感じていたことに加え、当社が平成30年度から生産性向上支援訓練のオーダーコースを継続して利用していたこともあり、訓練を活用することとしました。

その上で、訓練内容や日程、受講する社員の所属や階層等、こういった形での訓練実施がより効果的になるかを相談したところ、ポリテクセンターから、製造部門の社員向けに「製造分野におけるDX推進」、バックオフィスを中心に一般社員向けに「DX（デジタルトランスフォーメーション）の推進」を提案していただき、コースを決めました。

その後、講師の方も含めた打合せを通して、当社の要望を基に、カリキュラム及びテキストを作成していただきました。特に、「製造分野におけるDX推進」では、食料品製造業を中心に他社・他業種のDXの実例を多く取り上げていただくことで、DXを身近に捉えられたと思います。また、データの収集とその有効活用の重要性についても、事例を交えて学ぶことができました。

※DX対応コースとは、生産性向上支援訓練のうち、DX（デジタルトランスフォーメーション）の推進に必要な知識・技能を習得するためのコースです。

訓練受講から日が短いこともあり、具体的な取組みはまだありませんが、今回受講した社員がDXについて学び、基礎知識を得られたことは、一歩前進だと考えています。今後も訓練の受講等を活用して、DXに対する知識や意識を社内に広げ、DX人材を増やしていきたいです。

また、情報やデータの収集・利活用の重要性についても、社員がさらに認識を深めることで、数字やデータによる根拠を持って、提案やコミュニケーション、課題の解決ができるようになることも目指しています。

そして、能登半島地震による復旧・復興と同時に、DX推進部としての仕事は続けていく必要があると思っています。震災直後は2か月ほどリモートワークを余儀なくされた一方で、社内データのデータセンターへの移行や工場内の通信環境の無線化が震災前に完了していたことで、地震による被害が比較的抑えられたということもありました。これをきっかけに、ゼロベースから業務を見直し、DX推進に取り組むことのできる部分もあるのではないかと考えています。

「製造分野におけるDX推進」コース

<受講者様の声>

製造本部 団地工場 製造品管課
長坂 様

私の部署は、品質と製造の両面に関わる業務を担っております。工場検査・監査の対応としては、製品がルール通り、安心安全に衛生的に取り扱われるように、工場の巡回、帳票の確認を行っています。また、FSSC22000（食品安全マネジメントシステムの国際規格）関連の各種定期点検・測定・巡回・検証を実施しています。この部署で私は、主に帳票類の新規作成・改定、確認、管理や新規の消耗品や洗浄剤の選定・衛生教育の資料作成・教育等を行っています。

以前からDXには関心があり、機会があれば研修等を受けたいと思っていました。「DX」というと、高度で難しいイメージがありましたが、今回の訓練を通して、その重要性を改めて理解することができました。今後さらにDXに対する理解を進めていきたいですが、その入口が見えたと感じています。

現状の問題に対する要因分析やデータ収集の方法について、演習を通して学ぶことができたのも良かったです。製造部門の社員が集まり、お互いに業務がわかっている状態で、主に製造業務をテーマにグループワーク等の演習ができたため、より実践的で充実したものになりました。

文書の整理や管理、言語の壁がある外国人従業員も含めた社員教育、現在一部紙媒体の回覧で行っている情報伝達等、日頃課題に感じている部分で、DX的な視点からさらに改善できることはないかと、自分事として考える機会が増えました。今後も、今回のような訓練等に参加していきたいです。



製造本部 製造部
川崎 様

私は本社の製造部門として、原価計算や予算管理、商品情報等の社内マスタの管理、備品の整備・配布、社員の勤怠管理等を行っています。

今回の訓練で、デジタイゼーション→デジタルライゼーション→DX（デジタルトランスフォーメーション）という三段階のステップのうち、今はその最初の段階であり、今後は取引先等も含めて変革していく余地があるということを学ぶことができました。また、演習を通して学んだ特性要因図は、潜在的な問題点を整理して導き出す手法として、今後も活用できると思いました。

約10年前に工場の現場で勤務していた際に、水仕事のなか手書きで紙に記録をつける状況がありました。現在はデジタル化が進んだ部分もありますが、まだこれから取り組むべき部分もあります。訓練を受けて、タッチパネルでの入力が難しいなら音声入力できないかといった、別の方法を考える視点を得ることができました。

現在、主に表計算ソフトで行っているデータの集計についても、複数のファイルに分かれているものをまとめたり、マクロやVBAを活用したりして効率化したいと考えています。実際に活用できる社員が限られているということもあり、すぐに行うことは難しいですが、アプリやソフトを活用して、業務負担を軽減できるかもしれないという視点・気付きを得られる訓練でした。